

医工薬融合 GCOE Seminar Series

Center for Medical System Innovation
through Multidisciplinary Integration
The University of Tokyo

国立がん研究センターがめざす、 がん免疫療法臨床開発 ～Biotherapy Core Facility～

医長 平家 勇司

国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科

日時: 2013年3月22日(金) 16:00 - 17:00

場所: 東京大学本郷キャンパス

工学部5号館637号室(第5輪講室)



がんに対する免疫療法が注目を集めています。昨年、一昨年と、米国臨床腫瘍学会で発表された、抗 CTLA-4 抗体並びに抗 PD-1 抗体を用いた臨床試験の成績は、がん免疫療法の効果を疑う多くの腫瘍内科医に大きな衝撃を与えました。もはや、免疫療法に異議を唱える腫瘍内科医は急激に減少すると同時に、その臨床試験への参加を、先を争うように狙っているのが実情です。

中でも、多くの注目を集める抗 PD-1 抗体は、日本の研究者により開発されました。しかし、この抗体医薬の臨床開発は、米国の製薬会社を中心として行われ、最新の臨床データも米国から発信されています。日本は「基礎免疫研究は一流だが、その臨床開発は遅れている」と言われ、この対策として巨額の公的研究費が注ぎ込まれてきましたが、日本発の免疫治療薬の開発を主導するには至りませんでした。

国立がん研究センターは、日本のがん療法の開発拠点として、多くの企業治験や医師主導臨床研究を行い、それらに精通したスタッフも擁しています。私たちは、これらの資産を有効に活用し、日本のがん免疫療法臨床開発を促進するための施設・機関として、当センター内に“Biotherapy Core Facility”を構築いたしました。Biotherapy Core Facility は、がんセンター中央病院、研究所並びに東病院の垣根を取り払うだけでなく、免疫療法の開発を進める国内医療機関・研究機関にも開放され、Global な支点を踏まえたがん免疫療法開発の支援を行います。

今回のセミナーでは、日本のがん免疫療法臨床開発の現状と、Biotherapy Core Facility が日本発の免疫療法開発のために目指していることを私見も交えて紹介し、皆様のご批判、ご意見をいただきたいと思います。

主催: 東京大学グローバル COE 「学融合に基づく医療システムイノベーション」

東京大学大学院工学系研究科 教授 長棟 輝行

協賛: 「ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム」

東京大学ライフイノベーション・リーディング大学院

東京大学ナノバイオ・インテグレーション研究拠点

担当者: 聖子 ヤーネス

電話: 03-5841-1509 / Fax: 03-5841-1510

E-mail: jarnes@cnbi.t.u-tokyo.ac.jp

お申込み: <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/CMSI/>

